

専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
1) 保育職の社会的使命と職業倫理について理解している。	保育者の仕事は、子どもと一緒に遊ぶだけでなく、社会的に正しいことを教え込むことでもなく、子どもの健全な心身の発達を支え、必要な援助していくことだと理解している。保育者に課される守秘義務と職業倫理があることを知っている。	保育者が子どもの健全な心身の発達を支え、必要な援助をしていくために、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行っていくことが基本であることを理解している。保育者に課される守秘義務と職業倫理について、具体的に説明することができる。	保育者の役割には、子どもとの直接的なかかわりだけでなく、保護者の実情に寄り添い、共感しながら、保護者を支えていく相談者としての役割があることも理解している。実習等の保育現場において、保育者に課される守秘義務と職業倫理を順守することができる。	保育者の役割は、子どもとの直接的なかかわり、保護者を支援する相談者だけでなく、保育の専門職として子どもに関する発想や理念を社会全体にする発信するなど、多様な役割を担っていることを理解している。実習等の保育現場において、保育者に課される守秘義務と職業倫理を順守し、周囲と協働しながら、保育者として成長し続ける努力をしている。
2) 自らの保育を振り返ることの重要性を理解し、それに基づいて改善することができる。	記録をとる重要性とその方法を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について記録を取ろうとしている。保育を振り返ることの重要性を理解し、謙虚な姿勢で自己の保育を分析し評価しようとしている。	記録をとる重要性とその方法を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について記録がとれるようになりつつある。保育を振り返ることの重要性を理解し、子どもの内面理解と保育者の指導過程の両面について分析し評価しようとしている。	保育の記録をとる重要性を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について適切な方法で記録を取ることができる。保育の記録等にもとづいて、子どもの内面理解と保育者の指導過程の両面について客観的に分析・評価をし、次の保育の改善に生かそうとしている。	保育の記録の重要性を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等の相互間の関係性を重視して、適切に記録を取ることができる。保育の記録等にもとづいて、客観的に自己評価や保育全体に関する評価ができ、今後の保育に必要な視点や方向性を検討し、指導計画の改善に生かすことができる。
3) 子どもや保護者に共感的態度を持って接することができる。	どのような状況の子どもに対しても安定した気持ちで関わろうとしている。実習やボランティア経験、日常生活を通して保護者と子ども、保護者と保育現場の関わりを観察しようとしている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止めようとしている。実習やボランティア経験、日常生活を通して保護者と子ども、保護者と保育現場の関わりを観察し、保護者との関わりについて自分なりのイメージを持っている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止め、共感することができる。現代の子育てで家庭が置かれている状況や、実習などの保育現場での経験を踏まえて、一人ひとりの保護者の状況やその意向を理解・受容して、保護者と関わろうとしている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止め共感し、子ども一人ひとりに応じた言葉かけや援助ができる。一人ひとりの保護者の状況やその意向を理解・受容して、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮し、専門機関と連携しながら適切に支援することができる。
【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 保育の役割・機能・保育者の責務を理解している。	保育は養護と教育が一体的に展開されるため、まず子どもの心をしっかりと受け止め、相互的なやり取りを重ねながら、子どもとのかかわることが重要であることを理解している。不審者の侵入や火災、地震、重大事故や食中毒の発生等、子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の対応について説明できる。	保育は養護と教育が一体的に展開されるため、子どもの心をしっかりと受け止めるとともに、子どもの育ちを見通し援助する時には、身体の発育と心の育ちの両面に目を向けている。不審者の侵入や火災、地震、重大事故や食中毒の発生等、子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の危機管理について日常的に検討し、子どもの安全に留意した適切な対応について理解している。	養護と教育の一体性の意味を理解し、子どもを一つの主体として尊重し、その命を守り、情緒の安定を図りながら、乳幼児期にふさわしい体験が積み重ねられるよう援助している。また、養護と教育の視点から、自らの保育を振り返り評価しようとしている。子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の危機管理について日常的に検討し、緊急事態発生時には、子どもの安全に留意し適切に行動することができる。	養護と教育の一体性の意味を理解し、子どもを一つの主体として尊重し、その命を守り、情緒の安定を図りながら、乳幼児期にふさわしい体験が積み重ねられるよう援助している。また、養護と教育の視点から、自らの保育を振り返り評価しようとしている。子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時には、子どもの安全に留意し適切に行動できるとともに、専門職と連携して、子どもとその家族への精神保健面へのサポートをすることができる。
2) 発達過程や個々の特性に応じた支援の方法を理解している。	乳幼児期の発達段階に関する知識を持っており、各段階における発達の目安と適切な過ごし方について理解している。	同じ月齢や年齢の平均的・標準的な姿に合わせた保育にとどまるのではなく、子どもの発達は心身共に個人差が大きいことに配慮して、保育を展開している。	心身の発達の個人差に加え、子どもの活動における個人差にも配慮し、一人一人の活動の実態を踏まえたうえで、その子どもの興味や関心にそった環境を構成することができる。	子どもの心身の発達や活動の実態などの個人差を踏まえ環境を構成するとともに、さまざまに変化する子どもの気持ちや行動を受け止めて、適切な援助をすることができる。
3) 各領域の保育のねらいや内容・方法を理解し、総合的に指導することができる。	保育の内容における「ねらい」及び「内容」は、「養護」と「教育」の2つの側面に分けて示されており、それは保育の諸目標を具体化したものであることを理解している。	養護にかかわるねらい及び内容は、「生命の保持」と「情緒の安定」に分けて、「ねらい」と「内容」が示されている。一方、教育にかかわるねらい及び内容は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域から構成され、この5領域ごとに「ねらい」と「内容」が示されていることを理解している。	「養護」と「教育」の両側面を切り離して考えるのではなく、「生命の保持」と「情緒の安定」を図る「養護」の活動と5領域から構成される「教育」の活動が相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるような保育を心がけている。	「生命の保持」と「情緒の安定」を図る「養護」の活動と5領域から構成される「教育」の活動が相互に関連し総合的に展開するなかで、子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、ねらいや内容を柔軟に取り扱いながら保育をすることができる。
【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) ねらいに応じた教材の作成や保育環境を構成することができる。	子どもが環境との相互作用によって成長・発達していくことを理解し、子どもの状況により、さまざまに変化していく環境にしていけることが重要であることを理解している。	子どもが興味関心をもち、それまでの経験で得た様々な能力が発揮できるよう工夫して環境を構成している。また、子ども自らが環境を再構成したり、環境が変化したりすることを子どもたちと共に楽しむことができる。	ねらいや内容につながる必要な経験を子どもたちが得られるように、子どもの興味や関心だけでなく、生活の流れや発達の筋道、安全や健康などを考慮して、総合的に環境を構成しようとしている。	具体的に設定したねらいや内容に対して、子どもが保育の中で実際に経験できるように物、人、時間、空間などの環境を総合的に構成している。またその時に、清潔で安全な環境、家庭的な温かな環境を基盤に、子どもが環境に自分から関わる意欲が生み出されるよう魅力的な環境を設定している。
2) 子どもの主体性を尊重し、子どもの反応に臨機応変に対応しながら保育を展開できる。	保育実践は、子どもの生活実態を理解し、その生活を見通して作成した指導計画をもとに、柔軟に実践されることを理解している。	保育実践では、子どもたちの活動は保育者の予想通りとはなるとは限らない。当初の計画にこだわることなく、子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開しようとしている。	保育実践において、子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開しようとする時に、子どもの成長や発達にとって望ましい方向へ向かって、子ども自らが活動を展開できるように配慮することができる。	指導計画にもとづき子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開することができる。また、一緒に遊ぶ、共感する、助言する、提案する、環境を再構成するなど多様な援助をおこない、子どもの主体性を促し、情緒の安定や豊かな経験が得られるように配慮することができる。
3) 保育現場で求められる専門的技術の基礎・基本を身に付け、多様な表現ができる。	素話、絵本、手遊び、ペープサートなどの手作り児童文化財、歌遊び、絵を描くことや製作などの造形遊び、ルールのある遊びとしてのゲーム、体を使った運動遊びなどの保育実技全般について、恥ずかしいと感じることなく、全身を使って実践することができる。	素話、絵本、手遊び、ペープサートなどの手作り児童文化財、歌遊び、絵を描くことや製作ゲーム、体を使った運動遊びなどの保育実技全般について、子どもたちの年齢や発達に合わせたものを選択し、全身を使って実践することができる。	さまざまな保育実技をいつでもどこでも行えるように常に準備をしており、子どもたちにとって魅力のある提示の仕方や分かりやすく楽しむ様々な工夫をおこなっている。	さまざまな保育実技について、魅力のある提示の仕方や分かりやすく楽しむ様々な工夫をしながら実践し、子どもたちの生活や心を豊かにすることや、子どもたちの発達を助長することなどに寄与することができる。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 子どもの遊びに応じて、保育環境を構成することができる。	子どもが自分から環境にかかわり遊ぶためには、幼稚園でも保育所でも認定こども園であっても、環境構成をおこなうことが必要であることを理解している。	意図的な環境づくりをおこなう時、自分が考えた環境を構成するのではなく、子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもの姿から環境を作ろうとしている。	子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもの姿から意図的に環境を構成し保育を実践するとともに、保育中に事前に用意した環境と子どもたちの興味・関心等にズレがないか絶えずチェックしている。	子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもとの姿から意図的に環境を構成し保育を実践するとともに、保育中にその場の状況や子どもたちの活動の様子に応じて、環境構成を見直ししながら、柔軟に対応することができる。
2) 子どもの興味・関心を基礎とした保育における豊かな感性を発揮することができる。	日頃から芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどに興味関心を持ち、保育者としての感性を磨こうとしている。	保育者としての感性を高めるため、日頃から芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどに興味関心を持つだけでなく、それらと子どもの生活とのつながりについて考えている。	芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどの中から興味関心を持った事項について探求し、そのなかで得た実感や知識、経験を子どもに伝えようとしている。	芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどの中から興味関心を持った事項について探求し、そのなかで得た実感や知識、経験を子どもに伝えることを通して、子どもたちの心情・意欲・態度を育てようとしている。
3) 保育において多様な他者との信頼関係を築くための働きかけを行うことができる。	保育者には子どもとのコミュニケーションだけではなく、地域・保護者・社会など幅広い人間への対応、コミュニケーション能力が求められることを理解している。	保育者に求められるコミュニケーション能力の重要性を理解するとともに、園内の他の教職員や専門職員と情報交換するなどして、子どもや保育について共通理解を図り連携をすることができる。	園内の教職員はもちろん、保護者とも良好な連携関係を築くために、日頃から機会をとらえてコミュニケーションをとっている。また、園からの保護者への情報提供に努めるとともに、保護者から園への要望・ニーズをくみ取るようにしている。	日頃から園内の教職員、保護者と良好なコミュニケーションを維持している。また、子どもの育ちに関する問題が起こった場合には、専門機関と緊密な連携を取りながら、子どもの発達を支え、保護者の心配な気持ちを支えることができる。

西九州大学短期大学部(学位授与方針)の到達目標に対する学修成果の評価指標 ※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。
 ※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

I 【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できている。継続して良好な健康を維持できている。
②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切までに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切までに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。
④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つけ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つけ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つけ直し、何を学んだかをはっきり述べる事ができる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかをはっきり述べる事ができる。
⑤生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができ、仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができ、その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができ、仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。
II 【教養ある専門職業人としての 基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①社会生活・職業生活にとって意味ある知識を体系的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりについて意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限達成している。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③上記知識体系を外部的視点で捉え直すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いようと試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考へて発展的に活用することができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意識深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。
III 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意をはらい、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと考えられる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報を対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
②自然や社会的現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報解釈・結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完了することができる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的現象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報がある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完了することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用しており、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。
③ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしない。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 1 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じてある程度の ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 2 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 3 つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合できており、意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合できており、意図された目的は完全に達成できている。
⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエッセイやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念と部分的に関連付け、リサーチエッセイに答えることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチエッセイやテーマの範囲を十分に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念と関連付けるか、リサーチエッセイに答えることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチエッセイやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念と直接に関連付けるか、リサーチエッセイに答えることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。
IV 【地域生活を支援し、 創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
①上記 I ~ III の態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功が失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修する自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている事例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意識深く統合していることが、実例で示すことができる。
②地域での実践活動をもとに、上記 I ~ III の知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてははっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション(プレゼンテーション、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のソリューションに対して、課題に対する自分の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験できており、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のソリューションと自己の判断を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。
③上記 I ~ III の知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまでに学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びのある程度の深さで再検討している。	これまでに学んできたことを十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤をもっている。